

一九六三年の新年号を迎える。

来る年ごとに、新らしい子どもがこの世に生まれ、育ち、発達して、児童になり、児童になり、そしておとなになつてゆく。人間の生の営みとはいひながら、くりかえされることは、個人の感情など物の数でもないよう思える。しかし、人がこの世にあるかぎり、人間的な生活からはなれられないのでは、お互い同志に理解してゆくことはきわめてたいせつなのである。それでないと相手の人に思いがけない不幸を招くこともあります。児童に対しても、私どもはお互に隣人として理解して接してゆかなければならぬ。発達の途上にある相手であるから、おとの規準ではすぐには理解しにくいくことがあるし、忍耐強く待たなければならぬこともある。しかし私どもがこのようない理解に立つて接するかどうかは、児童にとって、大きな関心事なのである。児童は児童になり、青年になり、そしておとなになってゆく。それぞれの段階で、より幼いものに対する理解が育つてゆく。中学、高校の生徒も、それなりに乳幼児や年少者に対する理解を深めてゆくときには、

隣人関係により豊かなものになつてゆくだろう。青少年が将来に対する夢を追つて勉学に励むのはよいことである。けれども、自分のことばかりに一生けんめいにならぬで、隣人のことを顧る態度が必要である。これが保育教育である。児童に対する理解はたんに保育を専門とする人にはのみ必要なものではない。母親にはもちろん、父親にも、そして広く一般人に必要なものである。まだ精神発達の途上にある中・高生に対する保育教育一人間理解のための教育を私どもは強調したい。そうすれば日本の児童はもとと幸福になり、日本の社会はもつと明るいものになつてゆくだろう。保育教育は実は、中・高生になつてはじめて始まるものではない。児童期にすでに端を発している。児童が児童同志で理解すること、そしてまた、より小さい弟妹の赤ん坊や、小さい頃の子どもを理解することは、児童期からはじまるものである。

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
編集兼
発行所　津　守　真
東京都板橋区志村町五
印刷所　凸版印刷株式会社
東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番
一九六三年は、児童保育への関心と理解が一そうひろまることを願うものである。
◎本誌の購読についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。